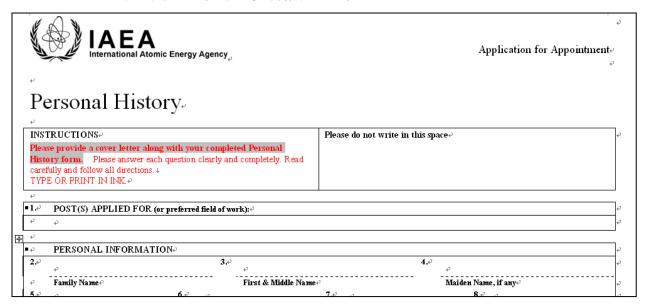
応募ポストが決まったら

• 応募手続き

- ・ 現在は、Online application が普通である。先ず、Vacancy Notice に関するページを探すと、公 募中の空席情報(https://recruitment.iaea.org/phf/p_vacancies.asp)に辿り着く。
- ・ その、右の欄に Online Job Application とあり、そこから応募用の登録をする。今すぐ応募する 場合でなくても、準備する意思でログインするといい。
- ・ さらに、応募用の Personal History Form (PHF)に導かれ、順次記入する。フォーム入力方式になっているはずで、記述の長さに原則制限はない。



- 記入し終わったら、保存しておく。本当に応募条件が揃うまで、推敲し納得できる内容で応募 しよう。
- ・ 関係部署への応援依頼: IAEA 側は上記の提出情報で正式に受付けて選考過程に入る。が、応募者は多く席は一つだから採用には国の強い後ろ盾があると心強い。採用を IAEA に前線で働きかけてくれる現地の日本政府代表部がその任を受け持っている。その応援を得るために国内の関係部署(外務、経産、文科各省)に並行して挨拶し、支援を要請することが出来れば有効である。なくても応募自体は可能であり、有効である。自分の熱意、特徴、売り込み点等を説明する。政府代表部が現地で採用運動を進める上で補足の情報が求められる例も少なくない。応募書類提出後は特に頻繁に上記の国内関係部署との連絡を保つ。

CV の書き方

- ・ もちろん真面目に書くが、「積極的表現」で「きれいに」書きたい。英語力も観察される。人 事担当者に「読む気」を起こさせるのが第一歩である。最近、採用過程に筆記試験が制度化さ れたとの情報がある。「書く能力」は応募時から評価の対象になるのである。
- ・ 職歴:「職場を替わった理由」を書く欄がある。前向きの表現で書きたい。「会社の指示」とか 「定期異動」ではなく、「昇進」「より広い経験を得るため」「高い技術を身につけるため」「こ ういう研修を修了・資格を取得したから」など、自分の質向上に自分の意志で積極的に行動し

たトーンで書きたい。「積極的性格」を最初に印象づけることはプラスに作用する。

- ・ 経験分野と未経験分野:経験分野はもちろん積極的に(風呂敷を広げる位の意気込みで)、未 経験分野でも「興味はある」「かくかくの経験で応用可能である」等積極的に表現する。「自信 がない」とは間違っても書かない。開発途上国応募者に限らず、日本人以外の多くの応募者は 「実力5を10にして話す(書く)」から日本的な「謙遜」は百害あって一利なしと思って良い。
- ・ 国際経験:滞在経験、出張経験、交流範囲、業務経験(プロジェクト管理、研究マネジメント、 共同研究等)を強調したい。書類選考段階の重要な判断資料になる。語学力評価の指標でもあ る。IAEA 関連業務(共同研究や会議参加、業務契約等)に携わった経験があれば言及する。
- ・ 発表論文等のリストには外国語(殆どは英語だろうし、それで十分)のものを多く挙げる。
- ・ 資格:専門分野の学位は必須ではないが、ある方が有利だし仕事もやり易い。それ自体が「実力」と「経験」のインディケータであり、主張にも重みが加わる。技術関係以外の資格も、特に語学関連は含めたい。
- ・ 推薦人:公式には三人まで書く。「義理」で自分の会社の上長とかを書いても普通は余り意味がない。IAEA に働く日本人友人を挙げるのも同様である。必要なら推薦人であるなしに関わらずこれらの人には問い合わせが行く。それより、「名の知れた人」それも「横文字の人」を含めたい。交流の広さ、国際経験を示すバロメータになる。(筆者の場合は、日英米から一人ずつお願いした。)
- ・ **国際機関人事センターホームページ中にも**国連事務局の応募用紙の書き方について掲載されています。 ぜひ参考にされたい。